

「確かな学力を育む教育の推進」

—地域や学校の抱える教育課題の改善に向けて—

滋賀県教育委員会

はじめに

本県では、「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」を教育行政の基本目標とし、確かな学力、豊かな心と健やかな体の育成、信頼される学校づくりを軸に学校教育を推進している。特に、個に応じたきめ細かな指導や各教科等における言語活動の充実に向けた学習指導の工夫改善等により、児童生徒の学力向上に取り組んでいるところである。

平成 21 年度は、「学力調査活用アクションプラン推進事業」に加えて「学力向上実践研究推進事業」等により、確かな学力の育成に取り組んできた。特に、全国学力・学習状況調査の結果からみられた課題については、平成 19 年度に滋賀県検証改善委員会が作成した「学校改善支援プラン」を踏まえ、全ての小・中学校で「学力向上策」を策定し、自校の学力や学習状況等に関する改善に向けた具体的な教材研究や指導方法の研究に取り組んできた。

I. 滋賀県教育委員会における取組

1. 事業内容について

(1) 事業概要

全国学力・学習状況調査の結果から見られた課題について、平成 19 年度に滋賀県検証改善委員会が作成した「学校改善支援プラン」等を踏まえ、推進校において学力や学習状況等に関する改善に向けた具体的な教材の研究や指導方法の研究等の取組に関する実践研究を実施するとともに、その成果の普及を図る目的で事業を推進した。

事業の推進は、滋賀大学教育学部、県小学校長会、県中学校長会、アクションプラン推進校所管市町教育委員会の協力のもと、「学校改善

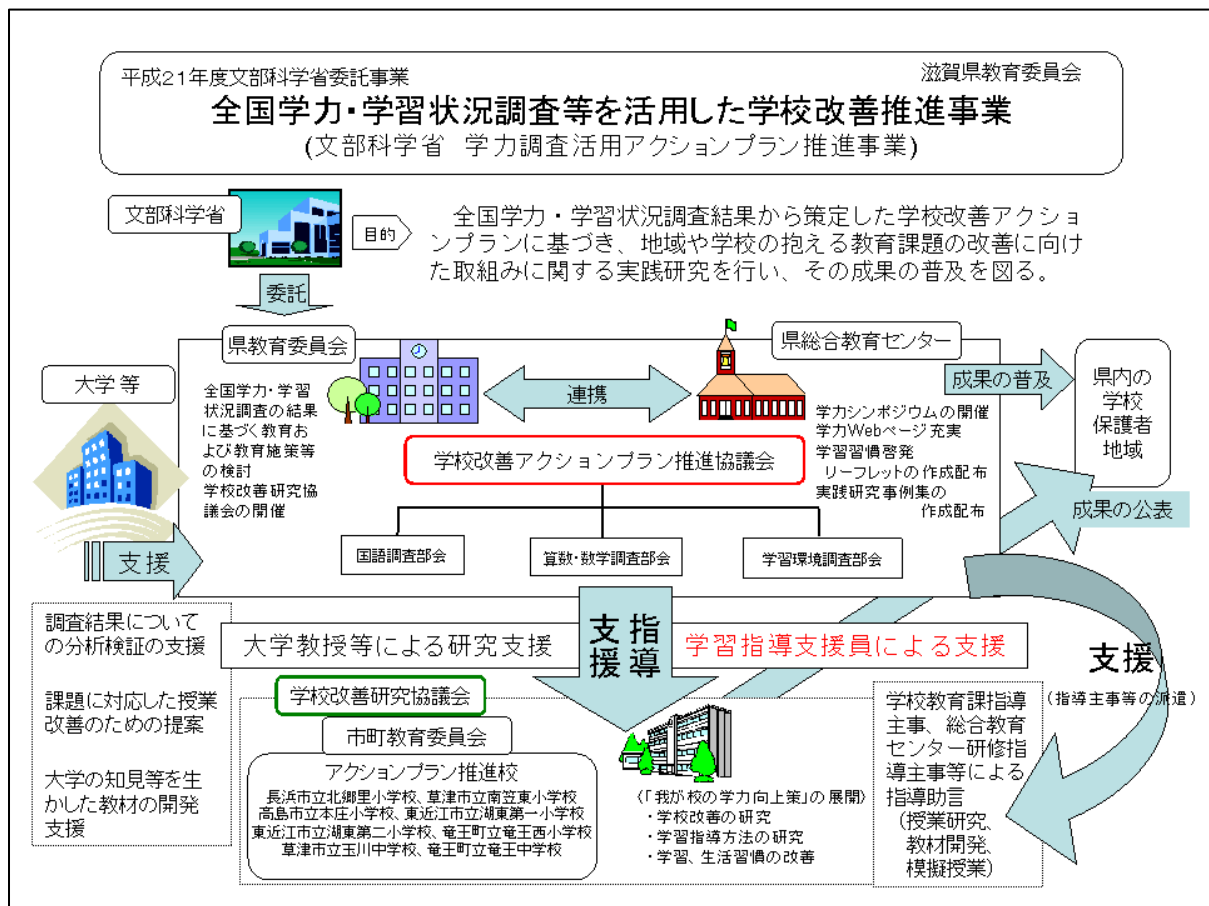
アクションプラン推進協議会」を組織し、全国学力・学習状況調査の結果分析から県内各小・中学校へ学校改善の方策や授業改善の方向性を示す「調査部会」と、学校教育課・総合教育センターの指導主事等の支援を受けながら具体的な学校改善や授業改善に取り組む「アクションプラン推進校」とで取り組んだ。

(2) 実施体制

本事業の実施にあたり、滋賀大学教育学部、県小学校長会、県中学校長会、アクションプラン推進校所管市町教育委員会の協力のもと、県教育委員会事務局学校教育課と県総合教育センターが連携した「学校改善アクションプラン推進協議会」を組織した。同協議会は、アクションプラン推進校において学力や学習状況等に関する改善に向けた具体的な教材の研究や指導方法の研究等の取組に関する実践研究を行うとともに、その成果の普及に努めた。

また、同協議会に国語、算数・数学、学習環境の 3 部会を組織し、調査結果の分析と考察、および学校改善に結びつく取組や具体的な授業実践についての調査研究等を行った。

さらに、アクションプラン推進校と所管市町教育委員会、県教育委員会事務局学校教育課員および県総合教育センター職員からなる「学校改善研究協議会」を組織し、それぞれの研究実践を持ち寄ることで各校の研究実践の高まりを図るようにした。



(3) 研究成果

本事業を県教育委員会と市町教育委員会、学校における共同研究として位置づけ、アクションプラン推進校における連絡会及び研究授業等への指導主事の派遣を行うことで、学力及び学習状況等に関する改善に向けた実践的研究を展開した。

このことにより、推進校の学校改善・授業改善の取組を具体的に支援することができ、学習状況の改善等の学力向上についての成果を見ることができた。

また、学力調査の結果や推進校における指導改善の取組の事例等を、大学教授等を含めた学校改善推進委員会や調査部会で多角的に分析検討を行い、学力調査結果分析システムの更新や活用問題・指導例の作成をするなど、県内の各小中学校の学力向上に関わる取組の充実に資する目的で事業に取り組んだ。

このことにより、学力向上や学校改善・授業改善に関する情報を的確に提供し、学力調査の結果をもとにしての「学力向上策」の見直し改善を図り、各校の具体的な学校改善や学力向上への取組を支援することができた。

さらに、「学力シンポジウム」の開催による

学校改善についての教員の意識改革や、「学校改善・授業改善実践事例集」の県内各校への配付、「確かな学び 豊かな学び 滋賀の学び」ホームページの更新や、家庭への働きかけとなるリーフレットの作成など、各校の学力向上についての取組を支援することに取り組んだ。

2. 普及啓発と今後の取組について

(1) 成果の普及啓発に関する取組

① 学力シンポジウムの開催

アクションプラン推進校の実践事例報告と国立教育政策研究所の専門職による講演会からなるシンポジウムを開催し、教員の学校改善と確かな学力の育成についての意識向上を図った。

② 学校改善研究協議会の開催

アクションプラン推進校の情報交換と研究内容の協議、研修等を行い、推進校同士の横のつながりを図りながら、学校改善のための手だてについて検討した。

③ 学校改善・授業改善実践事例集の発刊

アクションプラン推進校の学校改善への効果的な実践例を集めた事例集を発刊して県内の各学校に配付し、学校改善の成果普及を図った。

④ 「確かな学び 豊かな学び 滋賀の学び」
Web ページの更新

全国学力・学習状況調査の結果から、子どもたちの学力向上のためには、学校・家庭・地域が協力して取り組むことの大切さが明らかになった。県内の各学校の指導改善や家庭、地域の教育をサポートする情報を提供することを目的に平成20年度に開設したWeb ページを平成21年度の取組等を追加することにより最新のものに更新した。

【特長】

- ・アクションプラン推進校の学校改善状況をまとめたものを、キーワードや研究主題、学校名で選択して閲覧できる。
- ・授業改善の情報提供として、調査部会での調査の分析考察や活用問題例を「問題」「解答」「指導例」として提供する。
- ・学力調査の結果分析のために開発したシステムをダウンロードできるようにし、各校が調査結果の活用を図り、より具体的な学校改善、授業改善に取り組める。
- ・平成20年度、21年度の学力調査の分析結果をもとに、学力向上のために、学校と家庭・地域が連携・協力して取り組んでいくべき5つのポイントを示した。

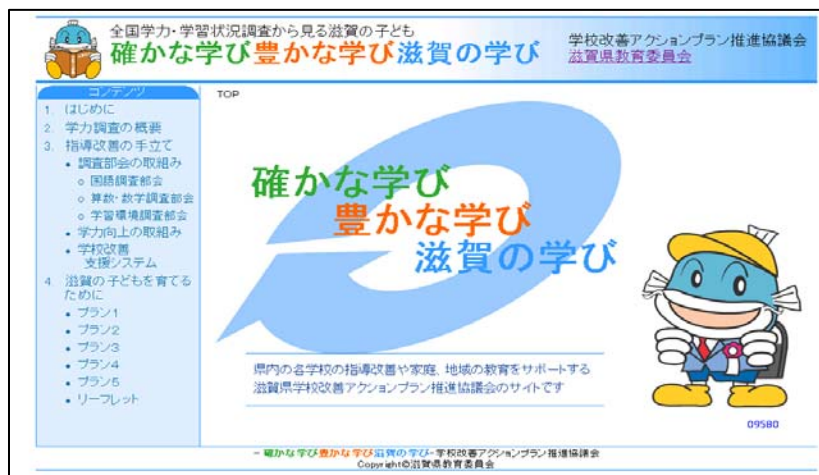


リーフレット「滋賀の子どもたちに確かな学力を育てます」

(2) 来年度以降の取組

来年度以降、新教育課程での確かな学力の定着と向上を図るためには、次の4つの観点を重視した取組が必要である。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 学習意欲の向上
- ③ 思考力・判断力・表現力等の育成
- ④ 学習習慣の定着



(<http://www.shiga-ec.ed.jp/manabi-shiga/>)

⑤ リーフレット「滋賀の子どもを育てるために」の作成・配付

Web ページの内容をもとに、リーフレット「滋賀の子どもたちに確かな学力を育てます」を作成・配付した。また、学校評議員会やPTA 集会での活用を促し、各校や地域で活用した。

基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るためには、授業改善と教員の指導力向上に取り組まねばならない。このことについては、昨年度から新教育課程の全面実施までに県内の全小・中学校の学校訪問を実施しており、この取組の中で、全国学力・学習状況調査問題の授業での活用や、今年度発刊した「学校改善・授業改善実践事例集」の活用を具体的に授業実践の改善の手だてとして指導しつつ、学習意欲の向上や、思考力・判断力・

表現力の育成に結びついた成果が得られるようにしていきたい。

また、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、来年度、県独自予算による「言語力アップ推進事業」を立ち上げ、国語科を始めとし全ての教科等における言語活動の充実を図るための実践研究に取り組む予定である。さらに、学習習慣の定着には、学校での学習の進め方等の指導とともに、家庭学習の充実を図るために保護者や地域との連携が欠かせない。そのために、PTA集会等で「滋賀の子どもたちに確か

な学力を育てます」のリーフレットの活用を啓発するなど、保護者等をまきこんだ県全体の取組にしていきたい。

各学校では、基礎的・基本的な学力を定着させるために、全校一斉の漢字や計算の学習の徹底、さらには授業時間を増やしての補充学習に取り組み、市町教育委員会においても、域内の各校が活用できる独自の漢字や計算の検定制度を導入したりするなど、つまずきを把握するための調査を行っている。

これらの取組を継続して、児童生徒が意欲をもって学習に取り組むことを支援していくことが大切である。本県がこれまで重視してきている体験から学ぶことを大切にしつつ、確かな学力の育成となるようにしていきたい。

Ⅱ. アクションプラン推進校における取組事例

取組事例①

「竜西ほんわか大作戦」

竜王町立竜王西小学校

(1) 学校の状況について

滋賀県の中央部に位置し、三方を松林に囲まれた自然に恵まれた環境にある。

児童数 260 名、13 学級、教職員数 26 名の学校で、「豊かな感性と自ら学ぶ意欲を持ち共にやり抜く実践力のある子ども」を学校教育目標とし、学力向上に向けて取り組んでいる。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

① 読書活動の推進と言語環境の整備

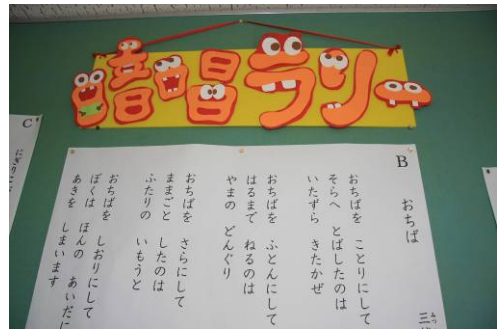
○各学級の取組

- ・自分の読書歴を振り返る読書貯金
- ・授業内容に関連する本などを陳列することによる読書環境の整備
- ・授業等での音読活動の重視



○全校的な取組

- ・「朝の全校読書タイム」と読み聞かせ等を行う「お話しタイム」
- ・美しい文章に触れる暗唱ラリー



○表現する場の広がり

低中学年児童を中心に、国語の教材文などの音読や暗唱を校長先生に聞いてもらう取組

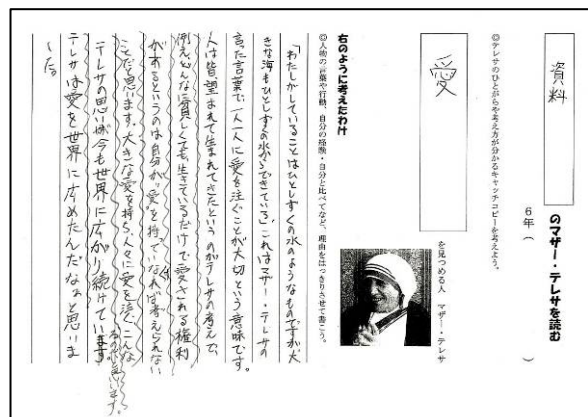


- ・4～6年生の有志による読み聞かせボランティア活動

② 「国語科」を窓口にした校内授業研究と少人数指導

○「読解力・思考力」を高める授業づくり

- ・複数資料を提示し、個に応じた読み取りを深める学習活動の設定
- ・目的や課題を明確にし、自分の考えをもてるワークシートの活用



○少人数指導の充実

- ・国語科、算数科における習熟度別少人数指導の実施
- ・学習指導支援員の活用

③ 学び合いを支える学級集団づくり
構成的グループエンカウンターやプロジェクトアドベンチャーの手法を活用した学級づくり

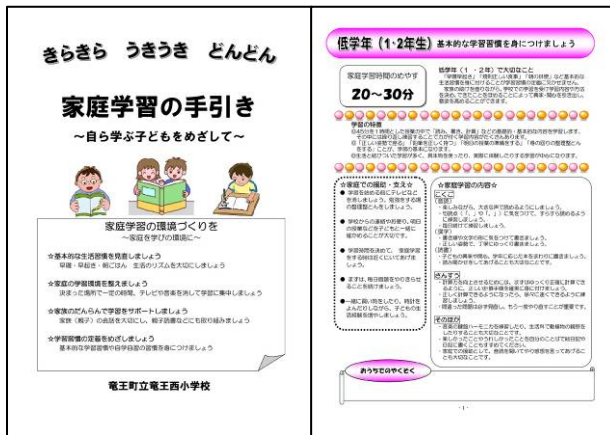
④ 家庭学習の充実と保護者・PTAとの連携

○家庭学習の充実を目指して

高学年での「家庭学習振り返りカード」の活用

○保護者・PTAとの連携

「家庭学習の手引き」を作成し、保護者会等で活用



(3) 成果について

① 児童の読書量が増えた

全校的には約30%の児童が「うんと読書量が増えた。」と回答しており、「少し増えた」を含めると約75%の児童の読書量が増えた。

読書量が増えた理由について見てみると、朝の全校読書、教室の読書環境の整備、読書貯金などの『ほんわか大作戦』の取組の効果があつたと言える。暗唱ラリーについては下学年で効果が大きかった。学年によって成果にばらつきはあるが、学校全体として、言葉や本（読書）を大切にする環境や習慣が整いつつあると言える。

また、「家庭の働きかけ」によって読書量が増えたという結果もあり、「家庭学習の手引き」をはじめとする家庭への啓発についても効果が表れてきたと考えられる。

② 読解力や思考力を高める授業づくりの研究が深められた

読解力や思考力を高めるための授業展開

(活用型学習) について研究を進め、ある一定の成果を見ることができた。また、学力低位層の児童らへの支援についても、習熟度別少人数指導や学習指導支援員による個別支援により、個に応じたきめ細かな指導が可能となり、児童の学習意欲の向上が見られた。

③ 仲間同士を支え合える学級集団づくりが進められた

学年が上がるにつれ、男女がお互いを意識し、学級の中で男子と女子がはっきりと分かれてしまいがちになるが、構成的グループエンカウンターやPAに取り組み、仲間と協力して課題を解決していく活動を通して、どんな時も全体がひとつになって前向きに取り組める集団に育ってきた。

(4) 来年度以降の課題について

- ① 「竜西ほんわか大作戦」の見直しと充実「学校の文化」となりえるような息の長い取組にしていきたい。
- ② 全校的に取り組めるスキル学習（基礎基本を定着させるための短時間集中学習）の構築と実践

取組事例②

「読みを深め、自分の考えをもって、伝え合う力を育て、思考力を高める」
長浜市立北郷里小学校

(1) 学校の状況について

滋賀県北東部に位置する長浜市の田園地帯を校区とする小学校で、歴史的な文化財を多く有している地域である。

児童数272名、13学級、教職員数32名の学校で、「人権を尊重し、心豊かでたくましく生きる児童の育成」を学校教育目標とし、学力向上に向けて取り組んでいる。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

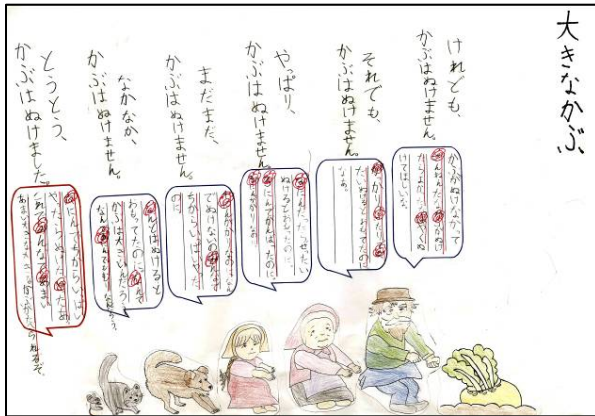
① 読みを深める学習活動の研究

○ワークシートの効果的活用

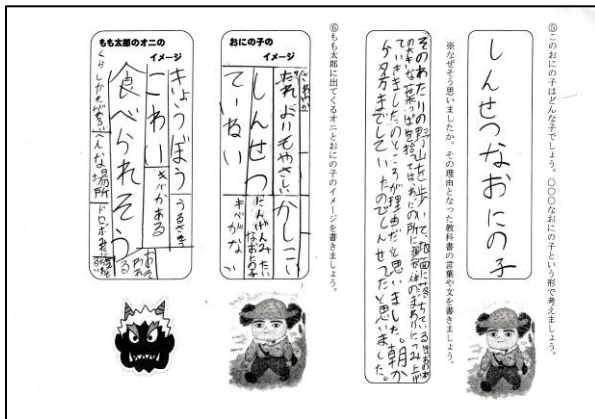
思考力を育てる効果的なワークシートとは、「学習のめあて、活動がはっきりしているもので、児童が書きたくなるもの、

書き出しのきっかけがつかめるもの、書いたものを土台にして、話し合いによる交流を通して、児童の思考が整理されたり、変容が認められたりするもの。」と考え、実践を重ねた。

- ・登場人物を具体的に把握しイメージするためのワークシート
- ・物語の展開を順を追って把握し、登場人物の行動とそのときの気持ちを考えるワークシート



- ・登場人物の位置関係を叙述に即して読み取り、互いに交流するワークシート
- ・登場人物の行動を順を追って書き出し、そこから心情を考えるワークシート
- ・主人公の行動に着目してその人物像を考えるワークシート



- ・登場人物の出会いの場面をキーワードの穴埋めで印象づけ、理解を深めるワークシート
- ・主人公の気持ちを考える際に、本文中の行動や様子に着目し、根拠を明らかにするワークシート



②詩の暗唱・音読発表による言語環境の充実

○さわやかタイム

毎朝 10 分間、各学級で音読や詩の暗唱を行うことにより、言語環境を充実させ、伝え合う力を支えることを目的とする。

○音読発表

各学級が年 1 回、全校集会で音読の発表を行う。



(全校集会での発表の様子)

③朝の読書・親子読書

○朝の読書

毎朝 10 分間、全校で読書をする時間を設定する。全児童が本袋を机に掛け、いつでも本が手元にあるようにする。

○親子読書

PTA と連携し、毎月第三日曜日を親子読書の日に設定。啓発のために PTA 新聞の発行や、親子読書アンケートを実施をした。



(朝の読書の様子)

④家庭学習の充実

- 学習内容の基礎基本の定着や集中力を養うため、家庭学習の見直しと充実を図る。
 - ・家庭学習の意義を教師間で意見交換し、共通認識をもち、課題を出す。
 - ・学校で学習したことを家庭に知らせる。
 - ・毎日、学習する習慣付けをする。
 - ・全学年、音読の家庭学習を出す。


○家庭学習のてびき

4年生以上を対象に「家庭学習のてびき」を配付し、自分で自主学習ができるようになる手がかりとする。

家庭学習の進め方

- 1 決まった時刻に、決まった場所で、毎日めやすの時間(10分×学年)をする。
- 2 静かな場所で姿勢をよくして集中してする。
- 3 音読や暗唱は毎日続け、脳の働きを活発にする。
- 4 ノートの使い方を工夫し(日付や問題番号)、学習のあとがわかるようにする。
- 5 問題を解いたら答え合わせをして、間違いは直す。
- 6 学習を終えたら、ふりかえりを書く。

☆いつも同じ内容にならないよう計画しよう。
 ☆国語辞典を手元において、分からない言葉は調べながら勉強しよう。



★家庭学習の例

国語の学習	算数の学習	その他の学習
1 漢字・ことばの学習	1 計算練習・文章題	1 覚える
2 視写勉強	2 復習	2 調べる
3 感想勉強(詩や日記)	3 問題づくり	3 まとめる
	4 道具をつかって	

(3) 成果について

① 読みを深める学習活動の充実

考えることや書くことに抵抗感のある子どもたちも、単元を見通したワークシートに毎時間取り組むことで、ワークシートに慣れ、進んで取り組めるようになった。

ワークシートの活用によって、児童の学習に向かう意欲を高め、個々の読みを話し合いに生かすことができた。話し合いによって「読むこと」のおもしろさを感じ、抵抗感を軽減することにつながったと考えられる。

② 国語力を支える実践の高まり

学校において、朝や給食の待ち時間などに読書をする習慣が定着しつつあるとともに、全校集会において一人で話すことができる児童が増え、集会での全校児童の聞く姿勢が向上してきた。

また、6年生の学習状況調査質問紙を12月に再調査した結果、

- ・家庭学習をしない児童 5%→0%
- ・家で学校の復習をしている児童 50%→95%
- ・自分にはよいところがあると思う児童 27%→39.5%

となるなど、児童が家庭学習の意義を理解し、自ら家庭学習に取り組もうとする意識が高まったこと、自分を見つめ大切に思うようになりつつあることが分かる。

(4) 来年度以降の課題について

- ① ワークシートを量的、質的に高める必要がある。そのために、教師間で情報交換を行い、指導資料を残し、互いの学習指導に生かしていく。
- ② ワークシートをより効果的に活用し、児童の自主的に学習に取り組もうとする意欲を高めるために、児童の課題意識に合わせた学習計画と、課題にそったワークシートづくりの必要がある。
- ③ 高学年では、考えたことを限られた字数にまとめて表現するなど、ワークシートに条件や課題を与え、思考力や書く力を高めしていくようにする。
- ④ 「読むこと」を深め、思考力を高めるためには、語彙力を育てることが不可欠である。そのために、家庭との連携、保幼小連携が必要になってくると考えられる。また、保護者、地域に子どもたちの言語環境を整備させ、学習習慣を定着させていくという意識を浸透させていくことも必要になる。